

脳ドック



医療法人脳神経研究センター
新さっぽろ
脳神経外科病院
名誉院長
端 和夫

脳ドックは今ではどこにでもある検査ですが、実は、新さっぽろ脳神経外科病院の中川俊男院長(現理事長)が、日本で、いや世界で初めて1988年(昭和63年)の開院時に始めた検診システムです。脳動脈瘤の破裂によって起るクモ膜下出血という病気は、当時は死亡率が30%、原状復帰できる人は半分以下というもので、大変手ごわい治療対象でした。しかし、もし脳動脈瘤を破裂前に見つければ非常に高い確率で完全に治療できます。脳ドックはそのためであったのですが、当時は脳血管撮影という多少大変な検査法しかなく、症状のない人の検診を考えるお医者さん

はありませんでした。

しかし中川院長(当時)は悲惨なクモ膜下出血を予防するためにと勇気をもって脳ドックを始めました。すると今まで千人に2、3人と思われていた脳動脈瘤がその10倍以上に存在することが分かりました。これには世界中のお医者さんが驚きました。その後、MRIができて今は安全に脳動脈瘤を見つけることができ、そして治療法も進歩し、クモ膜下出血は予防できる病気となりました。

今では、脳ドックはもう一つの手ごわい病気の認知症予防に力を入れています。認知症が予防出来て明るい未来が来ることを願っています。